

平成29年度小グループ自主的取組支援事業実績報告

No.	代表者名	補助対象事業名	企画提案事業名	事業報告
1	まちゼミ実施グループ 志村 修	商店街魅力創出事業	甲府市中心市街地商店街でのまちゼミ実施事業	<p>愛知県岡崎市をはじめに、現在、全国300箇所以上の地域で実施されているまちゼミは、お客様・お店・商店街にとって「三方よし」のまちおこしの取り組みであり、参加した多くの個店で新規顧客の獲得や売上げ増加に繋がっている。</p> <p>甲府市中心市街地商店街では昨年度に引き続き、第2回甲府まちゼミを2月1日～28日の1ヶ月間、26店舗で34講座を開催した。1講座が少人数制でありながらも、全体として398人(第1回と比べ181人増)の方が参加された。</p> <p>受講者アンケートでは、9割以上の方が「大満足・満足」と評価され、参加店を対象に実施した結果報告会においても、「初めて来店された方にお店のPRができた」「受講後に再来店して商品を購入した」など、集客につながった事例が報告された。</p> <p>また、この実施グループを一つの「チーム」として、他の地域活性化事業も実施していきたいとの意見も挙げられた。</p> <p>今後は、商店街が中心となって自主開催できるよう、運用について検討しながら、活性化を図っていく。</p>
2	山梨県立大学 国際政策学部 安達 義通	調査・分析・ 計画策定事業	甲府路地横丁の調査研究 及び情報発信事業	<p>かつて、甲府市の地域食文化の発信拠点であった「路地横丁」を地域の文化資源と捉え、横丁の形成過程や規模、特徴などの基礎調査を実施した。</p> <p>調査方法については、路地横丁を戦前・戦後に分類し、特に路地が集積している繁華街エリアを調査対象とし、老舗店舗への取材、写真撮影、執筆や編集活動等は大学生が実施した。</p> <p>調査結果については、「Kofuret 路地横丁 ver.」を4000部作成し、市庁舎、路地横丁の掲載店舗のほか、市内の宿泊施設や観光案内所等へも配布するなど、地域住民だけでなく、甲府市を訪れた観光客等にも手にとってもらえるよう情報発信を行った。</p> <p>また、甲府市役所1階市民活動室でシンポジウムを開催し、調査結果報告や特別講演のほか、パネルディスカッションを行い、路地横丁の魅力や地域課題、将来展望などを話し合い、参加された約60人の市民の方々に路地横丁に関する理解を深めてもらった。</p> <p>今後も、冊子配布等、継続した情報発信活動を実施するほか、さらに深く掘り下げた「路地横丁が果たしてきた(今後果たすべき)役割」などを調査し、広く市民に周知していきたいと考える。</p>
3	ファンタジア甲府 2017実施グループ 鈴木 重正	景観形成事業	甲府駅南口イルミネーション 「ファンタジア甲府2017」設置事業	<p>平成29年11月23日から平成30年2月14日までの間、中心市街地の玄関口である甲府駅南口の街路樹や植え込み、構造物を利用して、約5万球のLEDライトの飾りつけを行い、幻想的で華やかな雰囲気演出する「甲府駅南口イルミネーション」というイメージの定着を図った。</p> <p>設置初日である11月23日には点灯式やミュージシャン2組によるライブ等を行い、その様子は地元テレビの特集で放映された。メディアによるPR効果もあり、駅利用者がしばらく滞留して見物したり、見物のついでに駅前の百貨店を訪れたり、イルミネーションによる集客効果も見受けられた。</p> <p>今後も甲府駅南口の冬の風物詩として定着するよう、関係団体と連携を図りながら事業を推進していきたいと考える。</p>
4	後藤 貴仁	調査・分析・ 計画策定事業	国家資格者による不動産全戸調査 データベースと持続可能なまちづくり 事業(甲府グレープ・プラーク創設)	<p>甲府市中心市街地活性化基本計画のうち、「新たな賑わい拠点の整備」地域を対象として、1020筆の土地建物登記情報を取得し、目視や聴取などによる現地調査の結果と擦り合わせ、建設時期、取得原因、借地関係、所有者居住地、空き店舗などの分析を行った。</p> <p>その結果に対し、弁護士や一級建築士など法律や建設不動産に関する国家資格者が、中心市街地活性化やまちづくりに必要な「合意形成」や「開発」における潜在的な問題点の発見と解決策を提示した。</p> <p>また、グループ内に「こうふグレーププラーク委員会」を設置し、手法が模範となる不動産活用事例を選定した。その事例については、平成30年3月1日に甲府市役所市民活動室で開催した「こうふグレーププラーク授賞式&amp;公聴会」にて発表、表彰を行った。</p> <p>今回の調査報告を周知するために、商店会や自治会等への報告会を行っていくほか、「甲府グレーププラーク」による表彰等についても、甲府独自の文化として定着させ、全国に広めていきたいと考えている。</p>
5	高杉 'Jay' 二郎	商店街魅力創出 事業	商店街笑顔プロジェクト	<p>「落語」を基盤として、寄席開催による集客と商店街の宣伝活動とを連動し、商店街や地域の魅力を住民に伝え、「商店街は楽しい」ということを再認識してもらうための取り組みを行った。</p> <p>朝日通り商店街、紅梅通り、ちょうちん横丁、銀座通り商店街等で2017年9月から2018年3月まで計8回、東西のプロの落語家やパフォーマーを招き、普段触れる機会が少ない伝統芸能に親しんでもらった。来場された延べ337名の方からは、「演者の汗が見えるくらい近い距離で、それを身近な商店街で観れる」と非常に好評であり、次回開催を望む声が多数あった。</p> <p>また、商店街PRの一環として、全会場でのスタンプラリーも開催した。すべてのスタンプを集めた人も複数名おり、今まで行かなかった商店街にも足を運ぶきっかけ作りとすることができた。</p> <p>今後についても、「落語」というツールで魅力を発信できる機会を創出するとともに、商店街から生まれる文化的活動としてプロジェクトを推進していきたいと考える。</p>